

氏 名	園山 浩紀
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第509号
学位授与年月日	平成31年3月6日
審 査 委 員	主査 教授 田島 義証
	副査 教授 原田 守
	副査 教授 竹谷 健

論文審査の結果の要旨

近年、潰瘍性大腸炎(UC)の治療目標は臨床症状の改善のみではなく、腸管の粘膜治癒に置かれるようになってきた。腸管粘膜の炎症活動性や治癒の評価で最も信頼性が高いのは大腸内視鏡検査である。しかし侵襲を伴うことから、非侵襲的な評価法が模索されている。

申請者らは、UC症例の大腸内視鏡所見と種々の炎症性バイオマーカーとの相関を検討し、UCの病型（直腸炎型、左側結腸炎型、全結腸炎型）別にみた各種バイオマーカーの有用性を比較検討した。

2013年2月から2017年3月までの期間に、島根大学附属病院および関連施設（1施設）において全大腸内視鏡検査が施行され、便中カルプロテクチン、末梢血白血球数、血沈、CRP、血小板数、ヘモグロビン、血清アルブミンを測定したUC患者124症例を対象とした。男性79例、女性45例で、直腸炎型39例、左側結腸炎型54例、全結腸炎型93例であった。124例に計186回の内視鏡検査を施行し、同時に各種バイオマーカーの測定を行なった。内視鏡による炎症活動性の評価はMayo endoscopic subscore（MESスコア）で行なった。その結果、便中カルプロテクチンは全ての病型でMESスコアと有意な相関を示し、粘膜治癒と移行期（非粘膜治癒）・活動期との識別が可能であった。一方、CRPは左側結腸炎型と全結腸炎型で、また他の血液バイオマーカーは全結腸炎型でのみ相関が認められた。

便中カルプロテクチンがUCの病型に関わらず粘膜治癒の有用なバイオマーカーであることが今回の研究により初めて明らかとなった。今後のUC治療への応用と発展が期待できる優れた研究成果であり、博士（医学）の学位授与に値すると判断した。